平成２５年度　鳥取緑風高等学校　第三者評価　評価書

【講評】

鳥取緑風高校は、単位制で定時制課程の総合学科・通信制課程の普通学科を併せ持つ学校として、平成１６年に開校し、今年度は創立１０周年の節目を迎えられた。学業と仕事の両立を意図して入学した生徒たちの学校生活を支援しているほか、様々な学習歴等を持つ生徒のニーズに対応し、社会で自立することができる生徒の育成をミッションと考えている。

また、学校に求められる役割を踏まえ、教育の基本方針に「真摯」「自立」「共生」を設定し、教職員が真摯に生徒個々と向き合っている。

教職員一人ひとりは、進路保障が学校の課題であることを認識し、生徒の様々な発達特性に応じた指導・コミュニケーション能力の向上・人間関係づくり等の生徒支援に関する研修を通してスキルアップに取り組んでいる。また、外部人材を積極的に活用した学力向上対策として「緑風ソシオ」という大学生・大学院生等による個別学習への支援を学校独自事業で行っているところであり、効果が期待される。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

① 個々の生徒に応じた指導

基礎学力診断で実態を把握し、授業に生かしたり、放課後就職塾を年間１５回開催するなど、生徒に寄り添った指導は価値ある取組である。

② 外部人材の活用

授業や学校行事で多くの外部人材を招聘し、生徒に刺激を与える機会を計画的に設けている。緑風ソシオにおける学生ボランティアの継続的な確保は、困難な点も多いが地域の大学との連携や地域人材の掘り起こし、退職教職員への協力呼びかけ等で継続していただきたい。

③ 教育相談活動

進路変更が１年次生に多い実態から、定時制昼間部１年次生を対象に、スクールカウンセラーだけでなく、養護教諭による面談もなされ、学校全体で生徒を育てようという姿勢は保護者に安心感を与える。また、面談により、生徒の状況を知ることは、生徒理解・人間関係づくりに寄与している。

④ 学校評価・授業評価

生徒や保護者による評価の機会を設けており、わかりやすくその結果も公表している。最終評価アンケートの結果を分析し、次年度につながる努力がうかがわれる。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

① 職員研修

研修内容が、社会性育成や思春期の生徒とのかかわりなどに関するものが多い。少人数ならではの授業づくりの研修も企画されることを望む。

② 授業の改善

教職員で共通理解を持ち、授業を公開し、共に学び合う場が設定できるとよい。生徒の授業評価の設問「多くの授業は、内容が充実しており満足できる」の割合が減少している点は、教職員の授業力向上により改善できる。

③ 教科内・学年内・全校レベルでの教職員間のコミュニケーションの活性化

校内における分掌等組織どうしの関係性が不明確である。校務分掌が良好に機能しているか見直す必要がある。

④ 進路選択に向けた個人面談やガイダンスの充実

生徒が進路を見据えられるよう、科目選択や履修方法についての助言など、一層の支援を望む。